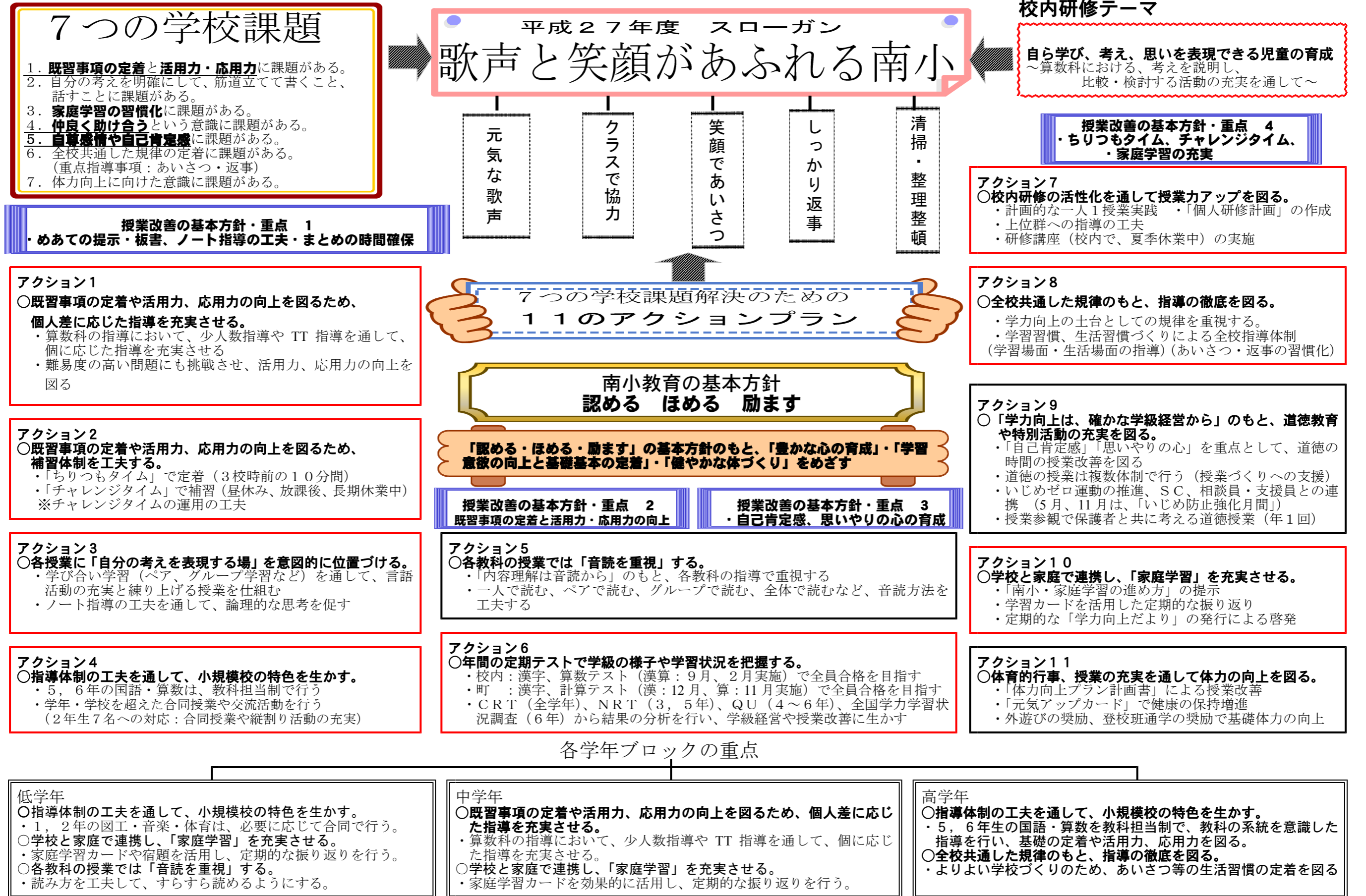


1 学力向上対策・11のアクションプラン 南小学力向上対策「7つの学校課題解決のための4つの重点と11のアクションプラン」(赤枠は 学力向上特配が核となり実践する) 校内研修テーマ



- ### 7つの学校課題
1. 既習事項の定着と活用力・応用力に課題がある。
 2. 自分の考えを明確にして、筋道立てて書くこと、話すことに課題がある。
 3. 家庭学習の習慣化に課題がある。
 4. 仲良く助け合うという意識に課題がある。
 5. 自尊心や自己肯定感に課題がある。
 6. 全校共通した規律の定着に課題がある。(重点指導事項：あいさつ・返事)
 7. 体力向上に向けた意識に課題がある。

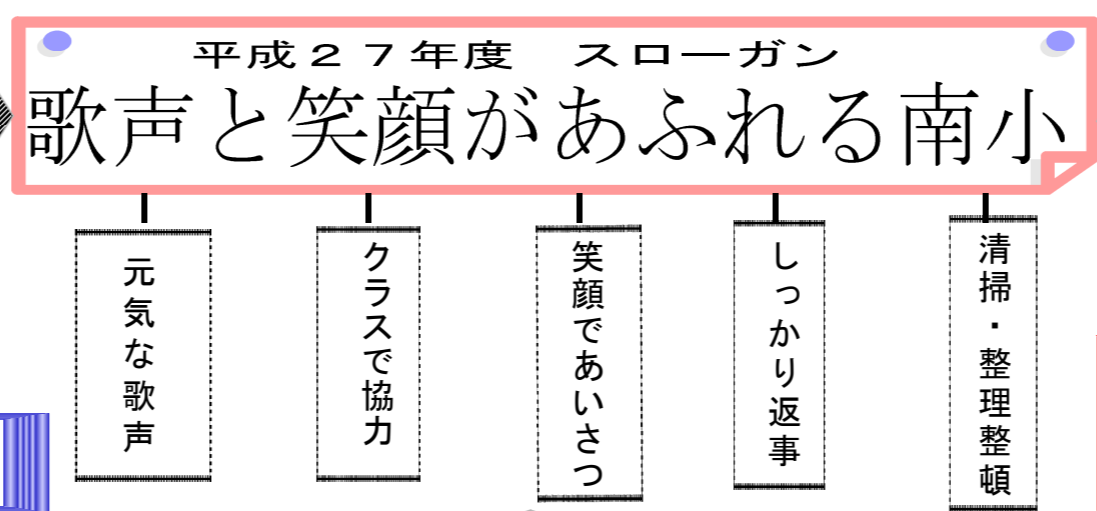
授業改善の基本方針・重点 1
 ・めあての提示・板書、ノート指導の工夫・まとめの時間確保

アクション1
 ○既習事項の定着や活用力、応用力の向上を図るため、個人差に応じた指導を充実させる。
 ・算数科の指導において、少人数指導や TT 指導を通して、個に応じた指導を充実させる
 ・難易度の高い問題にも挑戦させ、活用力、応用力の向上を図る

アクション2
 ○既習事項の定着や活用力、応用力の向上を図るため、補習体制を工夫する。
 ・「ちりつもタイム」で定着(3校時前の10分間)
 ・「チャレンジタイム」で補習(昼休み、放課後、長期休業中)
 ※チャレンジタイムの運用の工夫

アクション3
 ○各授業に「自分の考えを表現する場」を意図的に位置づける。
 ・学び合い学習(ペア、グループ学習など)を通して、言語活動の充実と練り上げる授業を仕組む
 ・ノート指導の工夫を通して、論理的な思考を促す

アクション4
 ○指導体制の工夫を通して、小規模校の特色を生かす。
 ・5, 6年の国語・算数は、教科担当制で行う
 ・学年・学校を超えた合同授業や交流活動を行う
 (2年生7名への対応：合同授業や縦割り活動の充実)

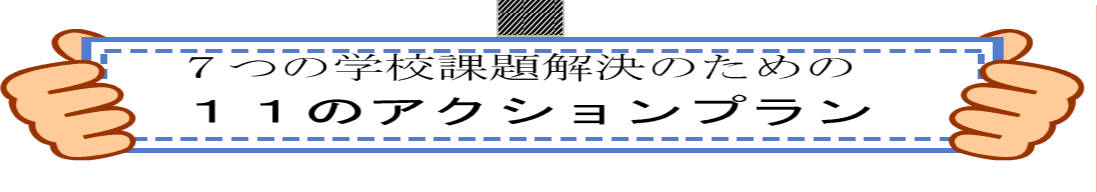


自ら学び、考え、思いを表現できる児童の育成
 ～算数科における、考えを説明し、比較・検討する活動の充実を通して～

授業改善の基本方針・重点 4
 ・ちりつもタイム、チャレンジタイム、家庭学習の充実

アクション7
 ○校内研修の活性化を通して授業力アップを図る。
 ・計画的な一人1授業実践 ・「個人研修計画」の作成
 ・上位群への指導の工夫
 ・研修講座(校内で、夏季休業中)の実施

アクション8
 ○全校共通した規律のもと、指導の徹底を図る。
 ・学力向上の土台としての規律を重視する。
 ・学習習慣、生活習慣づくりによる全校指導体制(学習場面・生活場面の指導)(あいさつ・返事の習慣化)



南小教育の基本方針
 認める ほめる 励ます

「認める・ほめる・励ます」の基本方針のもと、「豊かな心の育成」・「学習意欲の向上と基礎基本の定着」・「健やかな体づくり」をめざす

授業改善の基本方針・重点 2
 既習事項の定着と活用力・応用力の向上

授業改善の基本方針・重点 3
 ・自己肯定感、思いやりの心の育成

アクション9
 ○「学力向上は、確かな学級経営から」のもと、道徳教育や特別活動の充実を図る。
 ・「自己肯定感」「思いやりの心」を重点として、道徳の時間の授業改善を図る
 ・道徳の授業は複数体制で行う(授業づくりへの支援)
 ・いじめゼロ運動の推進、SC、相談員・支援員との連携(5月、11月は、「いじめ防止強化月間」)
 ・授業参観で保護者と共に考える道徳授業(年1回)

アクション10
 ○学校と家庭で連携し、「家庭学習」を充実させる。
 ・「南小・家庭学習の進め方」の提示
 ・学習カードを活用した定期的な振り返り
 ・定期的な「学力向上だより」の発行による啓発

アクション5
 ○各教科の授業では「音読を重視」する。
 ・「内容理解は音読から」のもと、各教科の指導で重視する
 ・一人で読む、ペアで読む、グループで読む、全体で読むなど、音読方法を工夫する

アクション6
 ○年間の定期テストで学級の様子や学習状況を把握する。
 ・校内：漢字、算数テスト(漢算：9月、2月実施)で全員合格を目指す
 ・町：漢字、計算テスト(漢：12月、算：11月実施)で全員合格を目指す
 ・CRT(全学年)、NRT(3, 5年)、QU(4~6年)、全国学力学習状況調査(6年)から結果の分析を行い、学級経営や授業改善に生かす

アクション11
 ○体育的行事、授業の充実を通して体力の向上を図る。
 ・「体力向上プラン計画書」による授業改善
 ・「元気アップカード」で健康の保持増進
 ・外遊びの奨励、登校班通学の奨励で基礎体力の向上

各学年ブロックの重点

低学年
 ○指導体制の工夫を通して、小規模校の特色を生かす。
 ・1, 2年の図工・音楽・体育は、必要に応じて合同で行う。
 ○学校と家庭で連携し、「家庭学習」を充実させる。
 ・家庭学習カードや宿題を活用し、定期的な振り返りを行う。
 ○各教科の授業では「音読を重視」する。
 ・読み方を工夫して、すらすら読めるようにする。

中学年
 ○既習事項の定着や活用力、応用力の向上を図るため、個人差に応じた指導を充実させる。
 ・算数科の指導において、少人数指導や TT 指導を通して、個に応じた指導を充実させる。
 ○学校と家庭で連携し、「家庭学習」を充実させる。
 ・家庭学習カードを効果的に活用し、定期的な振り返りを行う。

高学年
 ○指導体制の工夫を通して、小規模校の特色を生かす。
 ・5, 6年生の国語・算数を教科担当制で、教科の系統を意識した指導を行い、基礎の定着や活用力、応用力を図る。
 ○全校共通した規律のもと、指導の徹底を図る。
 ・よりよい学校づくりのため、あいさつ等の生活習慣の定着を図る